

『六つのパワー総括編』

目次

1. 自律性の働き p2
2. 妥当性の働き p2
3. 合理性の働き p2
4. 柔軟性の働き p3
5. 相互性の働き p3
6. 継承循環性の働き p3
7. 六つの行動原理の間の相互関係 p3
8. 新たなるプロフェッショナル宣言 p7



2014. 07. 06 PMファクトリー

これまでに論述してきた六つの行動原理について、それぞれの働きを総括すると同時に、それらの間の相互関係について整理をする。

1. 自律性の働き

自律性はあらゆる人間行為の源泉であり、自己完結・自己再生の力である。すなわち、自律性は直接的に妥当性および合理性に影響を及ぼし、妥当性を支える道徳性と合理性を支える科学的な理の源となる。自律性の力は妥当性および合理性に直接的な影響を及ぼすと同時に柔軟性・相互性・継承循環性にも影響を及ぼす。

- ◎自律性は**個の主体性(パーソナリティ)の発揮**そのものである。すなわち人間行動の四つのプロセスである「観察」「判断」「決定」「実行」を他に依存することなく自ら実行するということである。
- ◎自律性は妥当性を育て、妥当性を通じて**情緒性領域に関する問題の解消**の働きを持つ。
- ◎自律性は合理性を育て、合理性を通じて**科学的領域に関する問題の解消**の働きを持つ。
- ◎自律性は妥当性・合理性を通じて柔軟性・相互性・継承循環性を育てる。

2. 妥当性の働き

- ◎妥当性の本質は**社会的な道理適合性**および**実用適合性**である。すなわち道理にかなうと同時に実用的である考え方や行動を行うということである。
- ◎妥当性は**情緒性領域**に関する問題の解消の働きを持つ。
- ◎妥当性は個と集団規律間の摩擦を最小化し、**個の主体性(自律性)の発揮を最大化**させる。
- ◎妥当性は合理性と共に個および集団に**進むべき方向性**を与える。
- ◎妥当性は伝統的な社会的経験則の集大成であり、伝統的な経験則とは、その社会の基盤となる集団の文化、すなわち規律・行動規範・社会的倫理・道徳などである。
- ◎妥当性は自律性によって養成される。
- ◎妥当性は自己反省・振返りの行動によって養成される。
- ◎妥当性は柔軟性・相互性・継承循環性を養成する。

3. 合理性の働き

- ◎合理性の本質は**科学的思考に基づく分析力・判断力・実行力**である。すなわち事実を表す数値・数理に基づいた考え方や行動を行うということである。
- ◎合理性は**科学的領域**に関する問題の解消の働きを持つ。
- ◎合理性は道理に合わない情緒性を排除する。
- ◎合理性は妥当性と共に個および集団に**進むべき方向性**を与える。
- ◎合理性は科学的な法則の集合体であり、科学的な思考に基づいて証明された原理・法則などである。
- ◎合理性は自律性によって養成される。
- ◎合理性は科学的な自己反省・振返りの行動によって養成される。
- ◎合理性は柔軟性・相互性・継承循環性を養成する。

4. 柔軟性の働き

- ◎柔軟性とは**変化対応力**ないしは**環境適応力**である。
- ◎柔軟性は**妥当性**および**合理性**によって養成される。
- ◎柔軟性は一見解決が不可能と思われる問題に対して**妥当性の追及**および**合理性の追求**という二つの力による**新たな視点が生み出す力**によって**新たな解決策を提供**してくれる。
- ◎柔軟性とはさまざまな問題に対する**解決策の引き出しを多くもっている状態**のことである。

5. 相互性の働き

- ◎相互性とは個人や集団の間に発生するすべての**関係性を健全かつ建設的に保つ働き**のことである。すなわち**相互性**とは**信頼関係を成立させる力**である。
- ◎相互性は**相互義務の履行**および**相互扶助の実行**によって発揮される。
- ◎相互性は**妥当性**および**合理性**によって養成される。

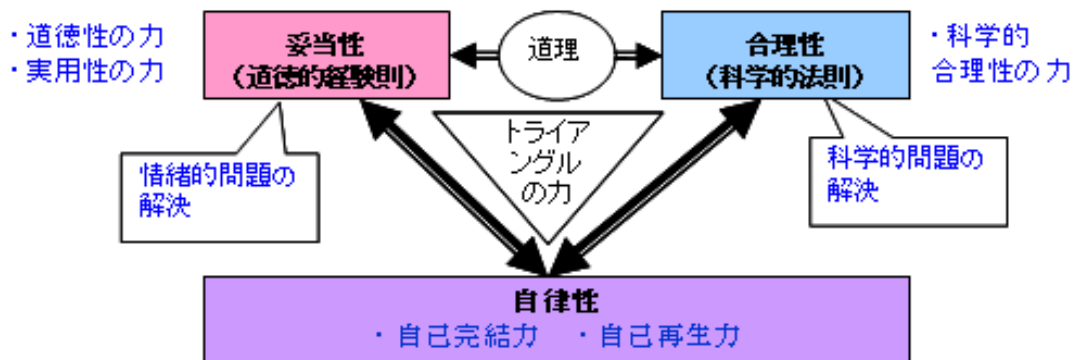
6. 継承循環性の働き

- ◎継承循環性とは**価値あるものを自から他へ譲り継承させること**である。すなわち、**専門性**および**社会性**ノウハウの**教育・指導**、**業務の結果の振返り**、**チームプレー**、**資産・権限・地位の移譲**などである。
- ◎継承循環性は**個人**および**集団の永続的成長**および**発展の力**となる。
- ◎継承循環性は**人を育てる**。
- ◎継承循環性は**富を増やす**。
- ◎継承循環性は**妥当性**および**合理性**によって養成される。

7. 六つの行動原理の間の相互関係

六つの行動原理の内の**自律性**、**妥当性**および**合理性**の三つが最も基本的かつ重要な役割を果たしている。

人の世は、個人も集団も「**妥当性の意志**」と「**合理性の意志**」の二つによって動かされているようである。**妥当性の意志**は、その民族が歴史的に積み重ねてきた**社会的な道徳的経験則**の集大成であり、それはまた民族によってはそれぞれの**宗教性の意志**であるのかも知れない。**合理性の意志**は、古くは**天然自然の道理**と呼ばれ近代においては**科学的な法則**の集大成である。これらの二つの意志は、人間の「**自律性**」という**基盤**の上で**渾然一体**となって発揮され、**個**および**集団を導く力**となっている。相互関係を図示すると下記のようになるであろう。

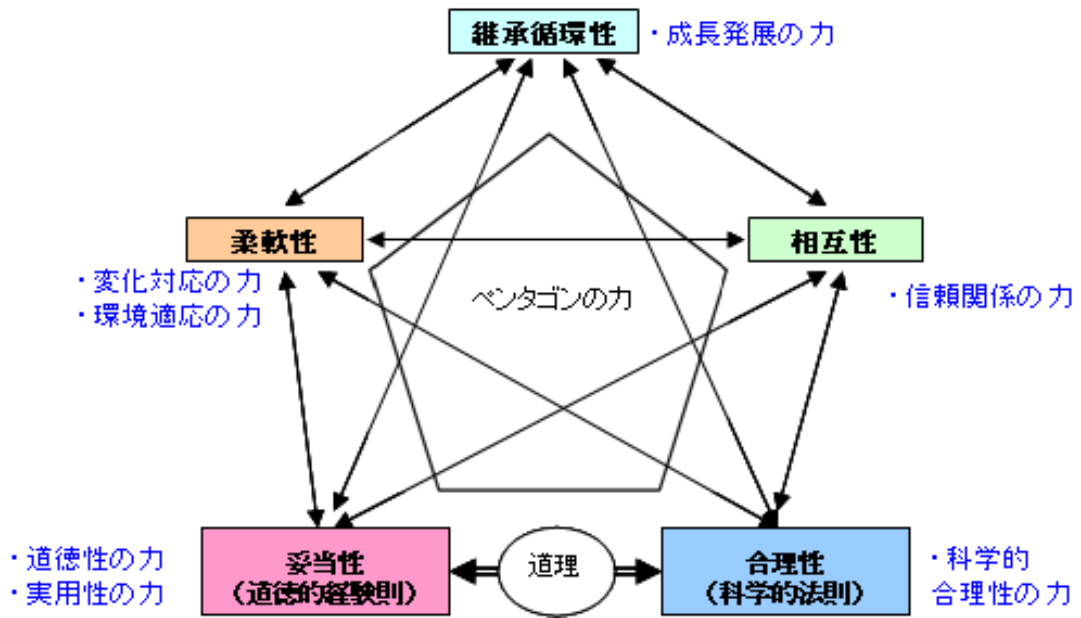


妥当性および合理性は自律性を基盤とした三角形を形成しており、非常に強固なトライアングルの力を発揮する。

これらを地球ゴマの絵で表すとすれば次のようになるであろう。自律性という人間が生来基本的にもっている性質は、高速で回転する円盤と中心軸に例えることができ、妥当性という枠および合理性という枠は、自律性を永続的に保つ働きをしているのである。これらの妥当性・合理性・自律性は日本の伝統的な武道などでいわれるところの心・技・体に相当するものであるとも言えるであろう。

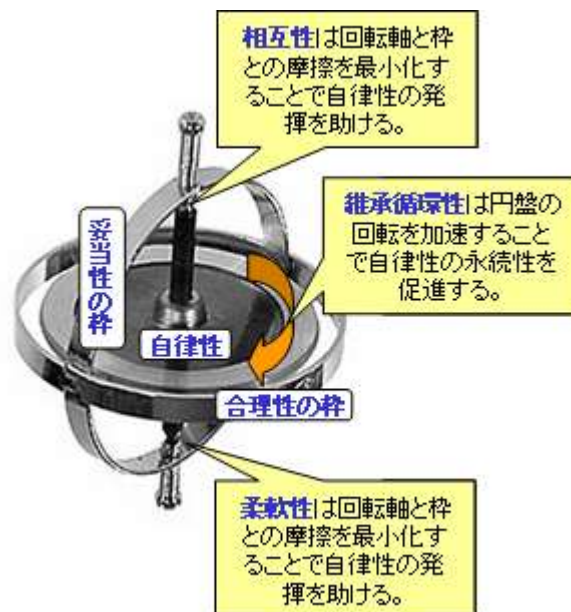


次に柔軟性、相互性および継承循環性については、妥当性および合理性を基盤としてこれらの五つが五角形を形成しており、非常に強固なペンタゴンの力を発揮している。それらの相互関係は次の図のようになるであろう。

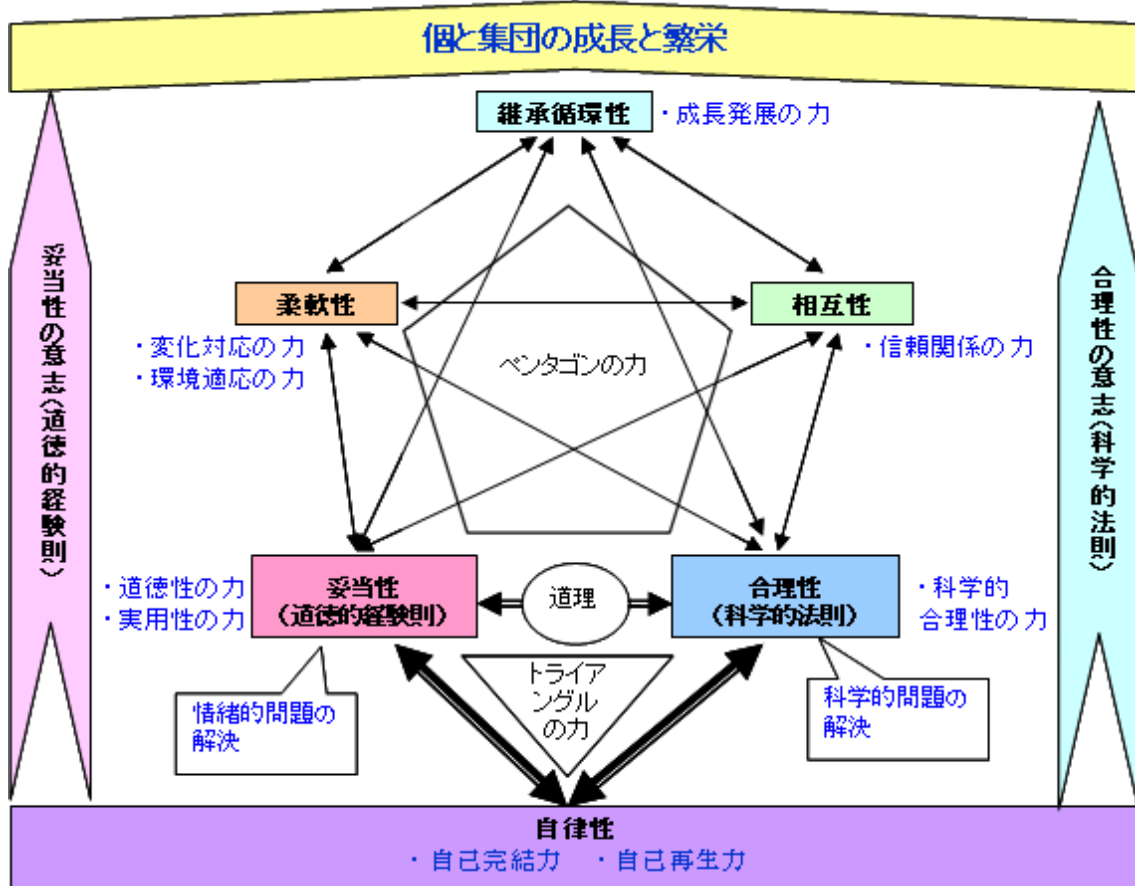


どのような世界においても、どのような思想の国々においても、個の「自律性」を基本とし、その上

で「**妥当性**」により情と欲による外界との摩擦を最小化し、「**合理性**」が示す宇宙自然の理に従うことで効率の最大化を図り、妥当性と合理性はその共通の特徴である道理によって情と理のバランスを図る。世の中のあらゆることから、社会的経験則の集大成である「**道徳性の意思**」と科学的法則の集大成である「**合理性の意志**」の二つによって動いている。これらの二つの意志のバランスが取れた状態が妥当かつ合理的な一つの意志として私たちの進むべき安定かつ適切な道を指し示す。その指し示す方向に向かって「**柔軟性**」により俊敏な変化対応を行い、「**相互性**」が生み出す信頼関係により集団の力を結集し、「**継承循環性**」により全ての力に永続性をもたせることができる。これらの六つの特性を有機的な結びつきをもって実行することにより、個および共同体の成長と永続的かつ健全な繁栄を実現することが可能となり、衰弱した個や集団の再生を図り、更に発展させることができるであろう。



六つの行動原理全体の相互関係は次のようになるであろう。



これらの六つの特性は上から下への流れで見れば、「柔軟性」「相互性」「継承循環性」の力は「妥当性」および「合理性」を育て、「妥当性」「合理性」の力は「自律性」を育てることをも意味している。

いずれにしても自律性を基盤とした五つの特性は強力なトライアングル(三角形)およびペンタゴン(五角形)を形成し、それらのバランスは個および集団を成長発展させ、バランスがとれなければ衰退させてしまう。

またこれらの六つの特性の発揮の仕方は、それぞれの個人、集団、地域、国家の歴史・文化によって異なってくるであろうことに注意しなければならない。それぞれにおいて、その特性の表れ方はさまざまな形態をとるであろうと思われるから——特に「妥当性」に関してはそれぞれの伝統や文化に強く依存した宗教・道徳律や経験則が存在するため——異質な個人や集団と遭遇した場合に表面的な現象だけをとらえて短絡的に理解不能という態度や過剰な自己防衛的ないしは攻撃的な姿勢をとる過ちをおかすべきではないだろう。

8. 新たなるプロフェッショナル宣言

私たちは次のようなものになりたい。

◎自分を信じる

私たちは、目の前でおきているさまざまな事柄について、他人の思惑を過度に忖度することなく、自分の目でしっかりと見、自分の頭で冷静に判断し、自分の意志により決定し、自分に自然に湧き起こる力で立ち向かっていきたい。

◎道理に沿う

私たちは、一時の情緒や感情に流されることなく、また私利私怨に惑わされることなく、昔から連続と続く信頼に値する道理に従い、人々の役に立つ考え方や行動をしたい。

◎合理性に学ぶ

私たちは、天然自然の運行の真理をよく表す数値・数理に基づく科学的合理性にかなった考え方や行動をしたい。

◎柔軟かつ自由な発想で新たな視点を見つける

私たちは、今までの自分たちの考え方に固執することなく、自分たちをとりまく変化に対し自由な心を保ち、新たな視点を見つけ、新たな取組みをしたい。

◎ともに義務を果たし、共に助け合う

私たちは、自分たちを取り巻く人々と共に相互の義務を果たし、相互の助け合いを行いたい。

◎価値あるものを譲り合い、分ち合う

私たちは、自分たちの保有する価値あるものを次の世代のものたちや劣位にある者たちに譲り合い、分ち合いたい。

◎なすべきことをした後は運を天にまかす

それでも物事が良くならない場合でも、あせらず時が熟すのを待ちたい。

私たちは、自分を信じ、世の道理に従い合理性に学ぶことによって、柔軟な発想で新たな視点を見つけ、仲間とともに相互の義務を果たし、ともに助け合い、持てるものを譲り分ち合うことによって成長発展していくことを本分としたい。

それとも、自分を信ぜず他人を憎み、道理に外れ合理を学ばず、自分のみに固執し社会的な義務を果たさず、他人との競争に明け暮れ譲り合うことも分ち合うこともしないような人間になりたいのか、いずれを選ぶのかは自分次第であろう。